

いこいのみぎわ

天路歷程 ジョン・パニヤン

第57話

2022年12月18日～12月24日 各家庭でのディボーション用テキスト

しかし少し元気になり、病気にも堪え得るようになったので、彼らはなおも進んでだんだん近づいて行くと、果樹園があり、ぶどう園があり、花園があつて、それらの門はこの街道に向かって開いていた。さて、二人がこの場所に近づくと、見よ、園守が道に立っていたので、巡礼者たちはその人に尋ねた、この美しいぶどう園や花園はだれのものですか。【申 23:24】彼は答えた、王様のものです。それはご自身の楽しみと巡礼者たちの慰めとのためにここに植えられてあるのです。そこで園守は二人をぶどう園に入れ、そのおいしい実を食べて元気を回復するようと言った。彼はまた王の散歩道と、王が楽しんで立ち寄られるあずまやとに案内した。ここで二人は休んで眠った。

さて、私が夢で見ていると、二人は今まで旅行中に話したよりももっと多くを、眠っている間に話し合った。私がそれについていぶかしく思っていると、園守は私に言った、なぜそのことをいぶかっているのですか。「なめらかに流れくんだり、眠れる者の口に物を言わせる」【雅 7:9】のはこのぶどう園のぶどうの実の持ち前ですよ。

こうして二人は目を覚ますと、都へ出かける用意をするのを私は見た。ところが前にも言ったように、都を照らす日光の照り返しが非常に輝かしかったので（都は純金だったから）【黙 21:18】二人はまだまともに見ることができず、わざわざそのために作ってある道具によって見たのである。【Ⅱコリ 3:18】こうして彼らが進んで行くと、黄金のように光り輝く衣を着た二人の人に出会うのが見えた。その顔もまた光のように輝いていた。

この人たちは巡礼者がどこから来たのかと尋ねたので二人は答えた。またどこに泊まり、道中でどんな難儀や危険や慰めや楽しみに出会ったかと尋ねたのでそれに答えた。すると彼らが出会ったその人たちは言った、あなた方はもう二つばかり難儀に出会わねばなりません。それから都に入るのです。

そのとき、基督者と道連れとはその人たちに同行を願った。すると彼らは参りましょう、しかしあなた方はご自身の信仰でそこに達しなければなりませんよ、と言った。こうして私が夢を見ていると、彼らは連れだって行き、ついに門の見える所にやって来た。

さて、私がなおも見ていると、彼らと門との間には川があつたが、それを渡る橋もなく、その川は非常に深かった。巡礼者たちはこの川を見て胆をつぶしたが、同行の人たちは言った、中に入って渡らなくてはなりません、さもないと門にはつきません。

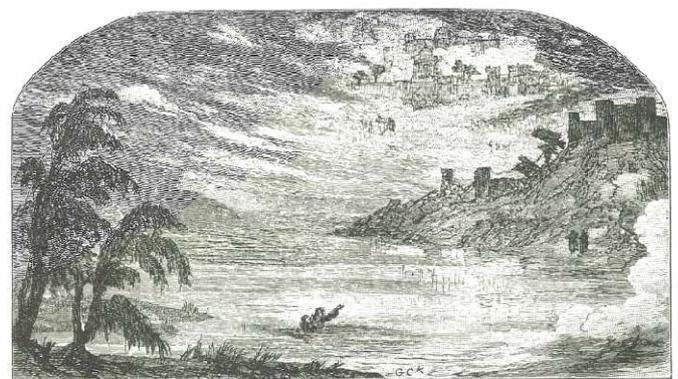
巡礼者たちはその時もうほかに行く道はないかと尋ね始めた。それに答えて彼らは言った、あります。けれども創世以来エノクとエリヤの二人のほかはだれもその

道を通ることを許された者はありません。またこれからも最後のラッパの鳴る時までではだめでしょう。【Iコリ 15:51-52】そのとき巡礼者、ことに基督者は心中落胆し始めて、あちこち眺めたが、川を渡らないですむような道はどこにも見当たらなかった。そこで二人は彼らに尋ねた、川はどこも皆同じ深さですか。いいえ、そうではありません。しかしこの場合お助けすることはできないのです。というのは、この地の王に対する信仰次第で深くなったり浅くなったりするのですから。

それから彼らは水に入る用意をした。そして入ると基督者は沈みかかったので、友人の有望者に呼ばわって言った、「わたしは深い水に陥り、大浪はわが頭の上をこえ、彼の波はことごとくわが上をこえてゆく。セラ」。【詩 42:7、69:2】

その時相手は言った、元気をお出しなさい。兄弟よ、私は底に触っています。それはしっかりしたものです。すると基督者は言った、「ああ、友よ、死の悲しみがわたしを困んだ。私は乳と蜜の流れる地を見ないであろう」。【詩 18:5】そう言うと同時に大きな暗黒と恐怖が基督者を襲うたので、彼は目の前が見えなくなった。ここでも彼はひどく気を取り乱したので、巡礼の道中出会った、元気を回復させるようないろいろの快い物を何一つ思い出すこともできなければ、順序だって話すこともできなかった。かえって彼の語る言葉はことごとく心中の恐怖と、自分はこの川で死んで、門から入ることはできまいという胸中の心配とがあることを表わすに役立つだけであった。ここでまた側に立っていた者の見るところでは、彼が巡礼になり始めて以来、またその以前にも犯した罪を思い出してひどく悩んでいるようであった。また彼が妖怪や悪霊の出現で悩んでいることも見受けられた。時々口に出してそれとなく言うことがあったからである。それ故有望者はここで彼の兄弟の頭を水の上に出しておくのにひどく骨折った。実際時として彼はまったく沈んでしまい、やがてまた半ば死んだようになって浮き上がってくることもあった。有望者はまた彼を慰めようと努力して言った、ああ、兄弟よ、門が見えますよ、それから私たちが迎えるために側に立っている人びとも。しかし基督者は答えて、それは君ですよ、彼らが待ちうけているのは君です。君と知り合いになってからいつも君は有望でした、と言うと、あなただってそうでしたよ、と彼は基督者に言った。兄弟よ、もし私か正しかったら、確かに主は立ち上がって私を助けられるでしょうに。

だが私の罪のために主は私をわなに入れておき去りにしてしまわれたのです、と彼が言うと、有望者は言った、兄弟よ、あなたは悪人について言われている聖書の言葉をまったく忘れてしまいましたね。「彼らには苦しみがなく、その身はすこやかで、つやがあり、ほかの人びとのように悩むことなく、ほかの人びとのように打たれることがない」。【詩 73:4、5】



死の川をわたる巡礼者たち

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい